

農作物病害虫発生現況情報（7月） 水稻編

岩手県病害虫防除所

1 いもち病（葉いもち）

（1）7月下旬の巡回調査（148圃場）での発生圃場率（発病葉率0.2%以上）は、平年より低かった（図1）。

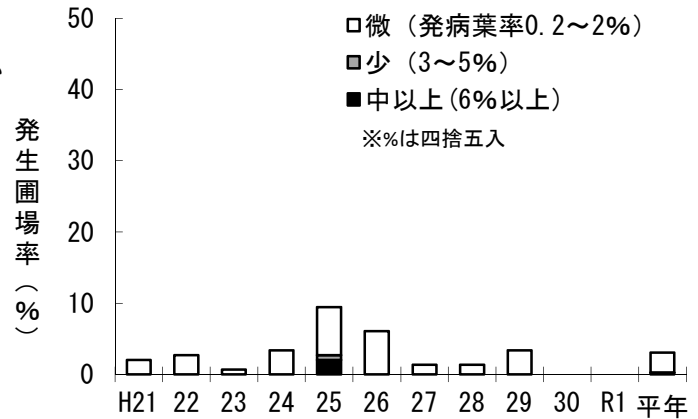


図1 葉いもち発生圃場率の年次推移（7月下旬）

2 紋枯病

（1）7月下旬の巡回調査での発生圃場率は、平年より低かった（図2）。

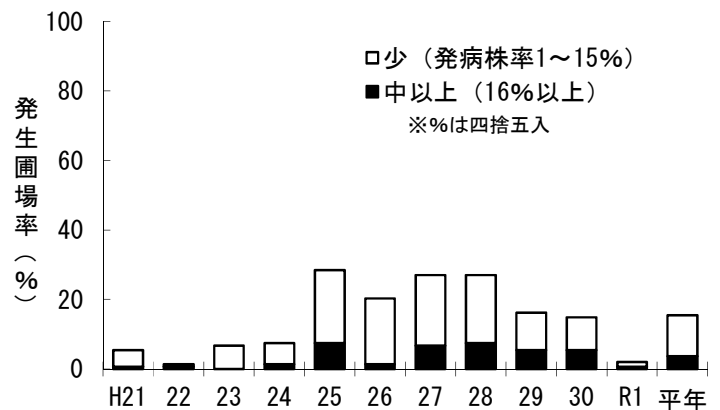


図2 紋枯病発生圃場率の年次推移（7月下旬）
※病斑が第4葉鞘以下の発病を含む

3 ばか苗病

（1）7月上旬の巡回調査（148圃場）での発生圃場率は、平年より低かった（図3）。

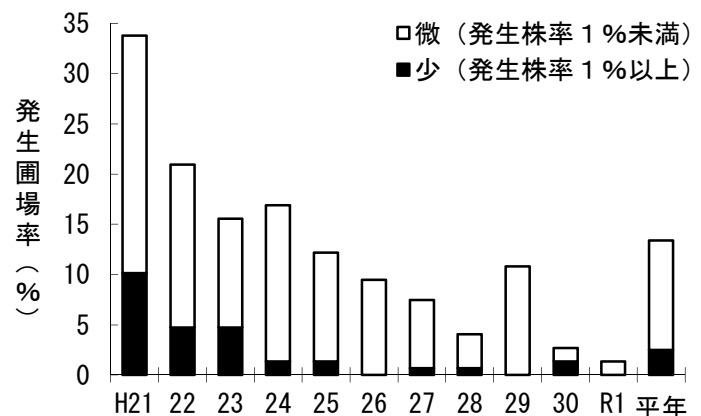


図3 ばか苗病発生圃場率の年次推移（7月上旬）

4 ごま葉枯病

（1）7月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（データ省略）。

5 斑点米カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）では、7月第4半旬以降にアカスジカスミカメ成虫が増加し、発生時期は平年並であった（図4）。
- (2) 7月下旬の水田畦畔すくい取り調査（県内74地点）では、斑点米カメムシ類の発生圃場率は平年並であった（図5）。
- (3) 7月下旬の巡回調査（148圃場）では、アカスジカスミカメの増殖源となる本田内のイヌホタルイの発生圃場率は平年より高く、特に県中南部では程度が高かった（図6、7）。

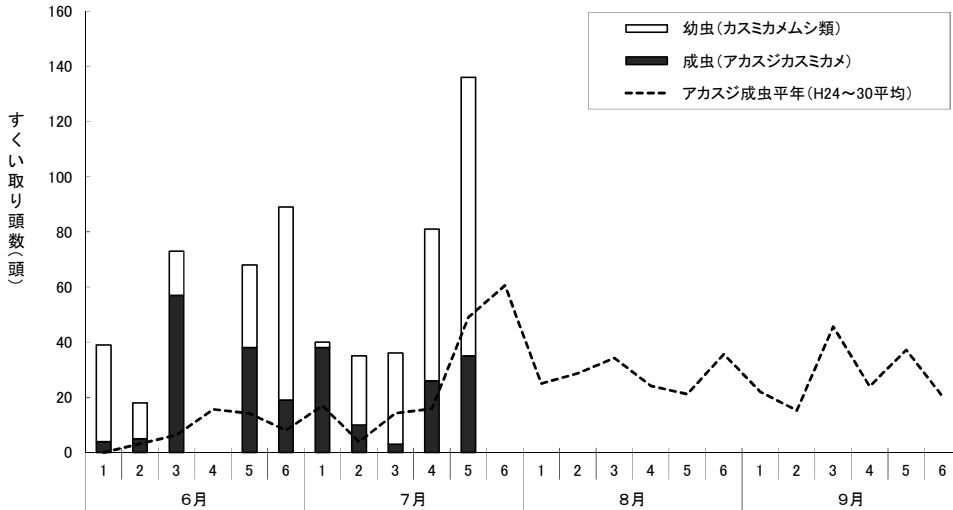


図4 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるカスミカメムシ類の発生推移（7月第5半旬現在、往復20回振）

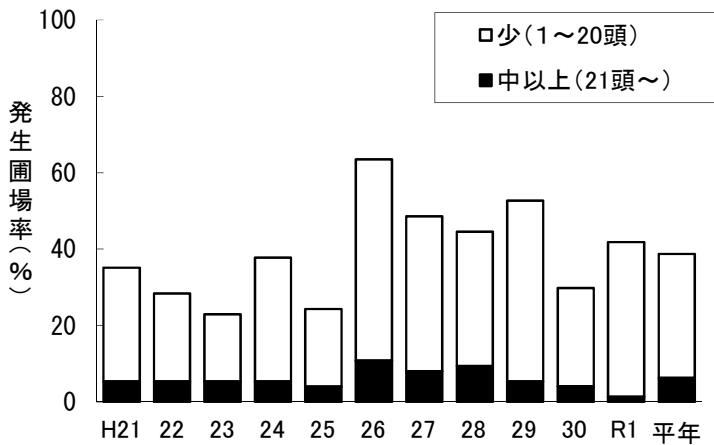


図5 斑点米カメムシ類の発生圃場率の年次推移（7月下旬、水田畦畔すくい取り、往復20回振）

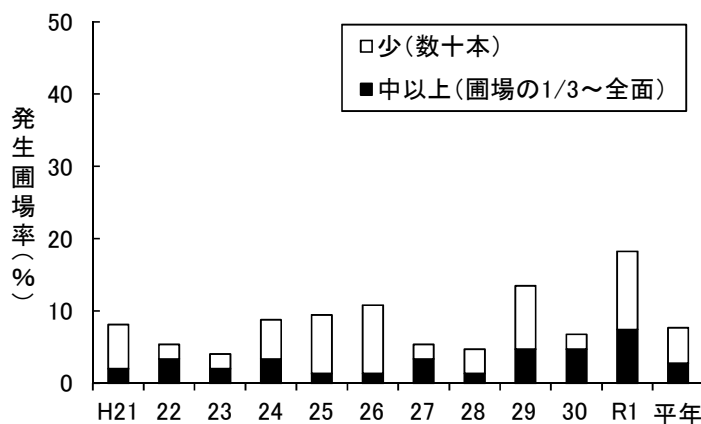


図6 本田内のイヌホタルイの発生圃場率の年次推移（7月下旬）

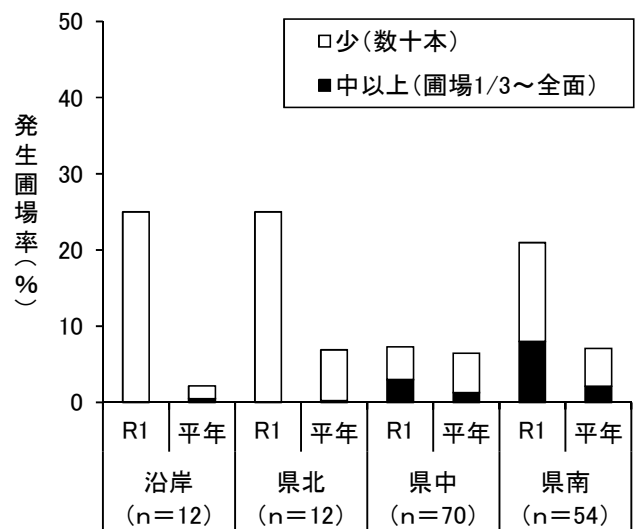


図7 地域別のイヌホタルイ発生圃場率（7月下旬）

6 フタオビコヤガ (イネアオムシ)

(1) 7月の本田すくい取り調査 (県内 39 地点) における第2世代幼虫の発生圃場率は、平年より低かった (図8)。

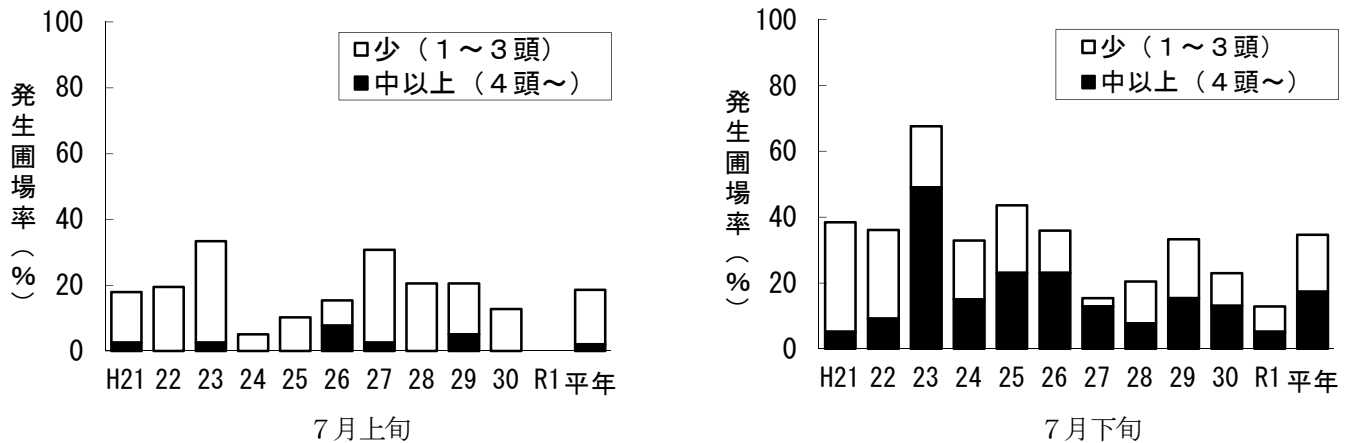


図8 フタオビコヤガ (イネアオムシ) 幼虫の発生圃場率の年次推移 (7月上下旬、本田すくい取り、往復20回振)

7 ウンカ類

(1) 7月下旬の本田すくい取り調査では、平年同様に発生は確認されなかった (データ省略)。

8 コバネイナゴ

(1) 7月の本田すくいとり調査では、発生圃場率は平年より高かったものの (図9)、すくい取り頭数は平均21頭/地点で、要防除水準 (他県設定) には達していない。

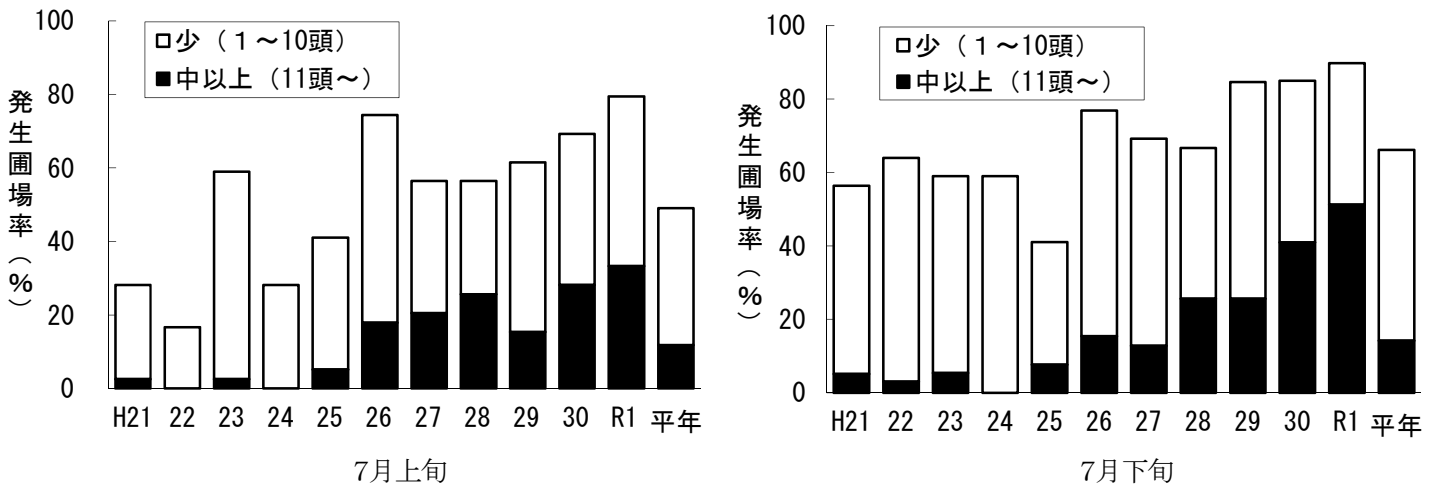


図9 コバネイナゴの発生圃場率の年次推移 (7月上下旬、本田すくい取り、往復20回振)

9 ツマグロヨコバイ

(1) 7月下旬の本田すくい取り調査では、平年同様に発生は確認されなかった (データ省略)。

農作物病害虫発生現況情報（7月） りんご編

1 斑点落葉病

- (1) 7月後半の巡回調査での発生園地率は、ふじは平年より高く、王林はやや低かった（図1）。
- (2) 発生度は、ふじは平年より高く、王林は平年並であった（図2）。
- (3) ふじの地域別発生園地率は、県中部、県南部で平年より高かった（図3）。
- (4) 基準圃場（北上市成田、スターキングデリシャス、無防除）における発病葉率は、7月第1半旬に増加したものの平年より低く推移した（図4）。

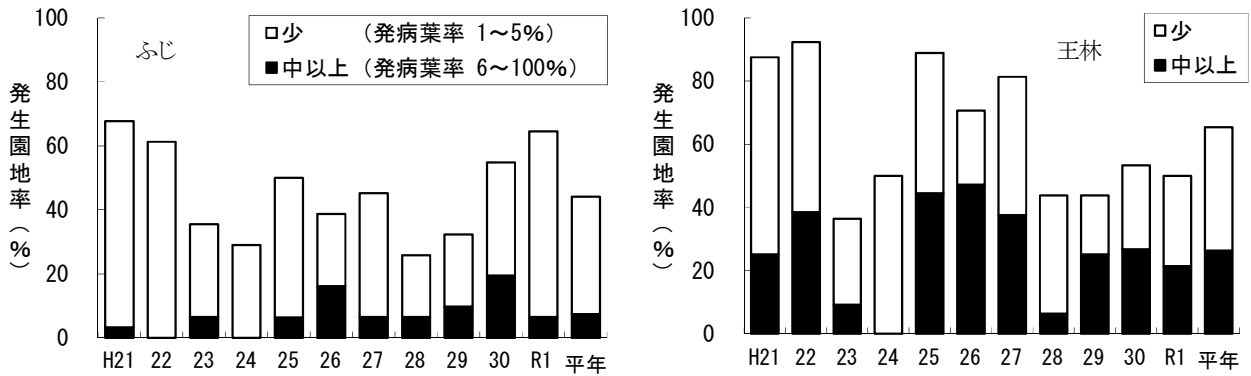


図1 斑点落葉病の発生園地率の年次推移（左図：ふじ、右図：王林、7月後半、徒長枝上位10葉）

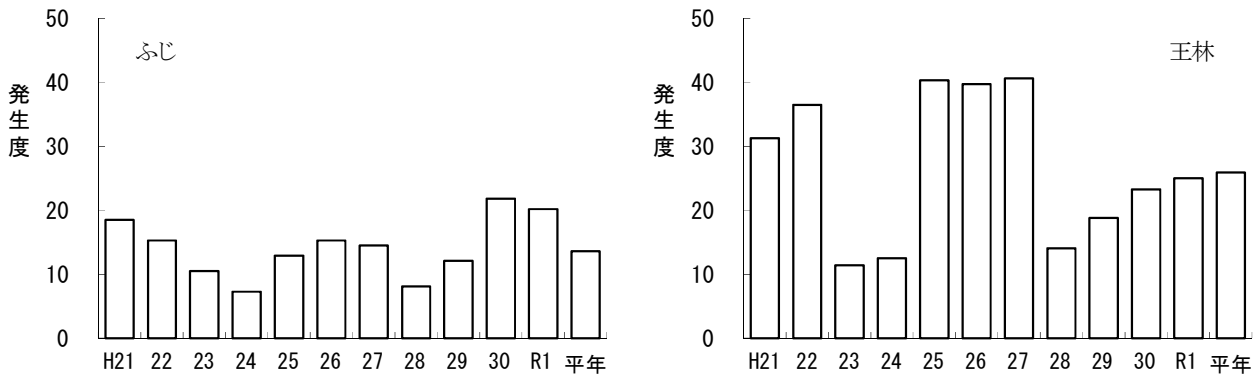


図2 斑点落葉病の発生度の年次推移（左図：ふじ、右図：王林、7月後半、徒長枝上位10葉）

※発生度：(基×4+多×3+中×2+少×1) / (4×調査園地数) ×100

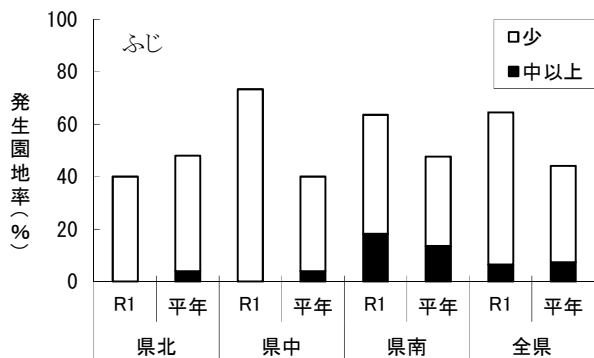


図3 斑点落葉病の地域別発生園地率（ふじ、7月後半）

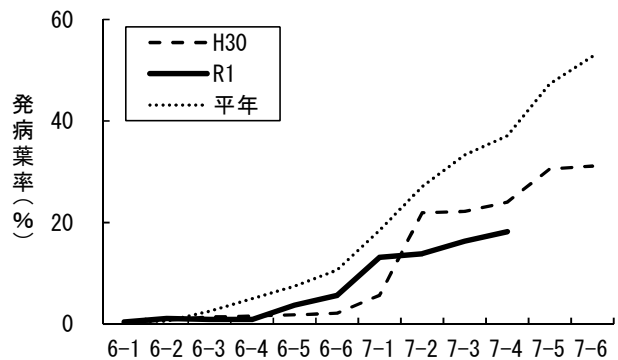


図4 基準圃場における斑点落葉病の発病葉率の推移（月-半旬、デリ系、新梢葉）

2 黒星病

- (1) 7月後半の巡回調査では、発生園地率は平年および前年より高かったが、発生程度が高い園地はみられなかった(図5)。
- (2) 地域別では、県北部、県中部で発生がみられ、県北部では前年に発生程度が高い園地がみられたが、本年は発生程度が高い園地はみられなかった(図6)。県中部では、前年より発生園地率が高かった(図6)。

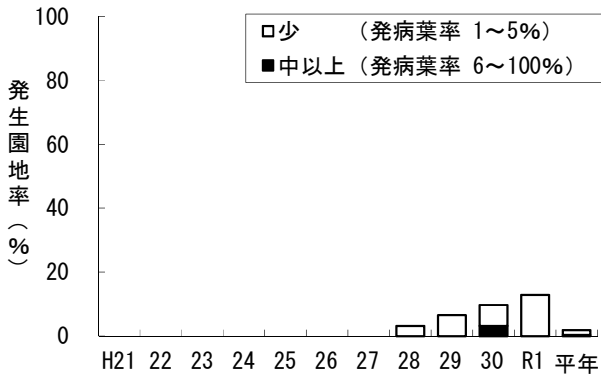


図5 黒星病の発生園地率の年次推移
(7月後半、徒長枝葉)

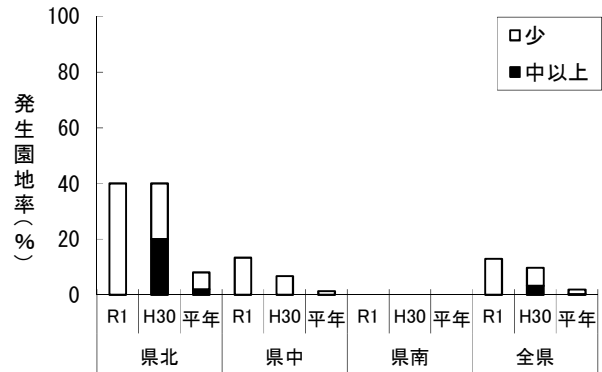


図6 黒星病の地域別発生園地率
(7月後半、徒長枝葉)

3 褐斑病

- (1) 7月後半の巡回調査では、発生園地率は平年より高く、発生程度が高い園地がみられた(図7)。
- (2) 地域別では、県中部、県南部で発生が多かった(図8)。
- (3) 基準圃場(北上市成田、ふじ、無防除)における発病葉率は、7月第1半旬以降に急増し、以後、平年よりかなり高く推移した(図9)。

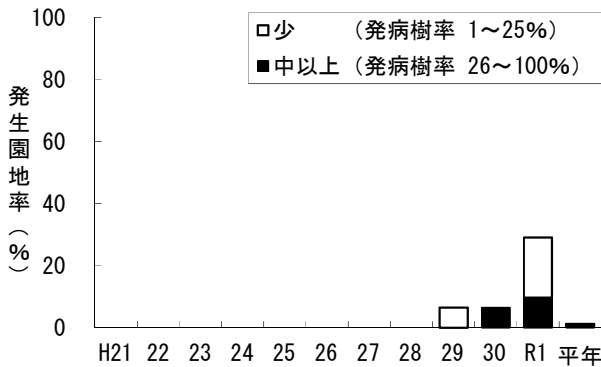


図7 褐斑病の発生園地率の年次推移 (7月後半)

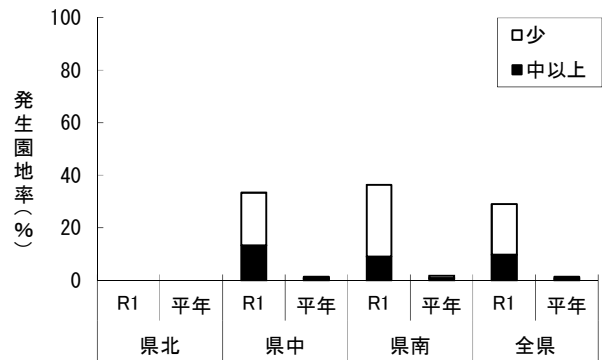


図8 褐斑病の地域別発生園地率 (7月後半)

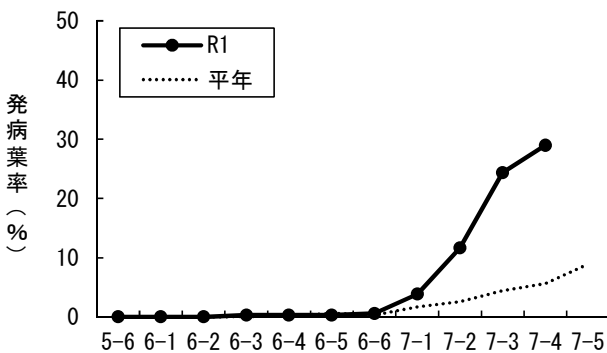


図9 基準圃場における褐斑病の発病葉率の推移
(月-半旬、ふじ、新梢葉)

4 キンモンホソガ

(1) 7月後半の巡回調査でのキンモンホソガ第2世代の発生園地率は平年よりやや低かった(図10)。

5 ギンモンハモグリガ

(1) 7月後半の巡回調査でのギンモンハモグリガ第3世代の発生園地率は、平年より低かった(図11)。

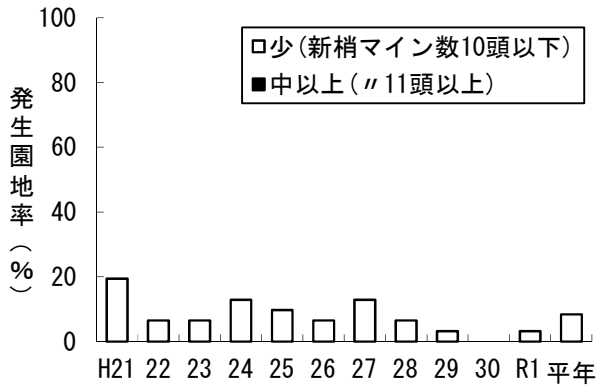


図10 キンモンホソガ第2世代の発生園地率の年次推移 (7月後半)

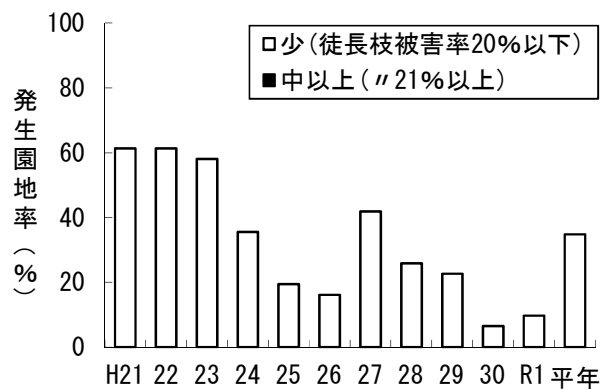


図11 ギンモンハモグリガ第3世代の発生園地率の年次推移 (7月後半)

6 リンゴハダニ

(1) 7月後半の巡回調査での発生園地率は、目通り、樹上部とも平年並であった(図12)。

(2) 目通りの時期別発生園地率は、6月後半以降、概ね平年並に推移している(図13)。

(3) 目通りの地域別発生園地率は、県中部で発生程度の高い園地がみられた(図14)。

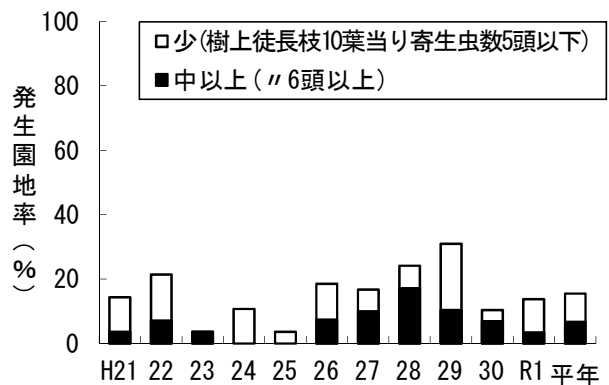
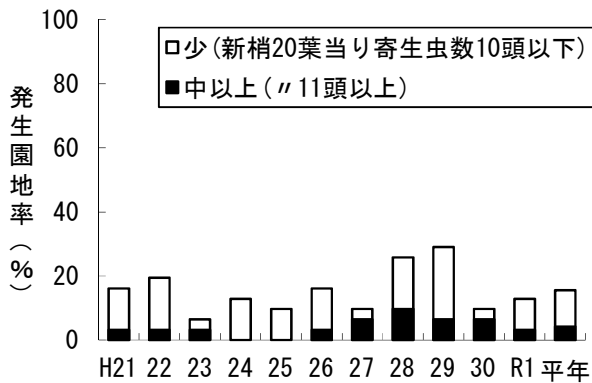


図12 リンゴハダニの発生園地率の年次推移 (7月後半、左:目通り、右:樹上部)

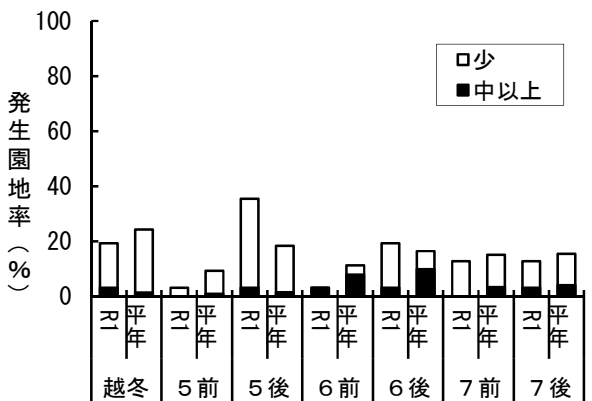


図13 リンゴハダニの時期別発生園地率の推移 (目通り)

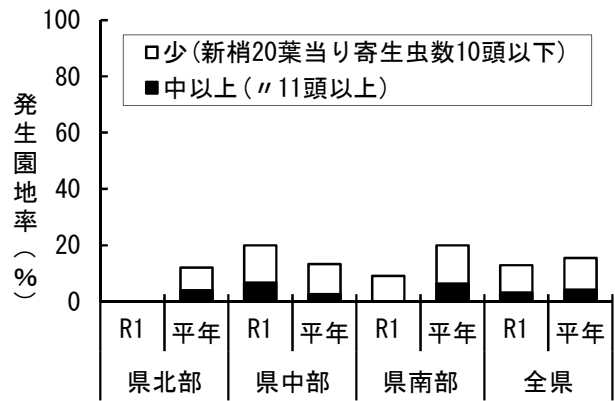


図14 リンゴハダニの地域別発生園地率 (7月後半、目通り)

7 ナミハダニ

- (1) 7月後半の巡回調査での発生園地率は、目通りは平年よりやや低く、樹上部は平年並であった(図15)。
- (2) 目通りの時期別発生園地率は、6月後半は平年並であったが、7月前半は平年より低く、7月後半は平年よりやや低かった(図16)。
- (3) 目通りの地域別発生園地率は、県北部では平年より高いものの、発生程度の高い園地は見られなかった(図17)。

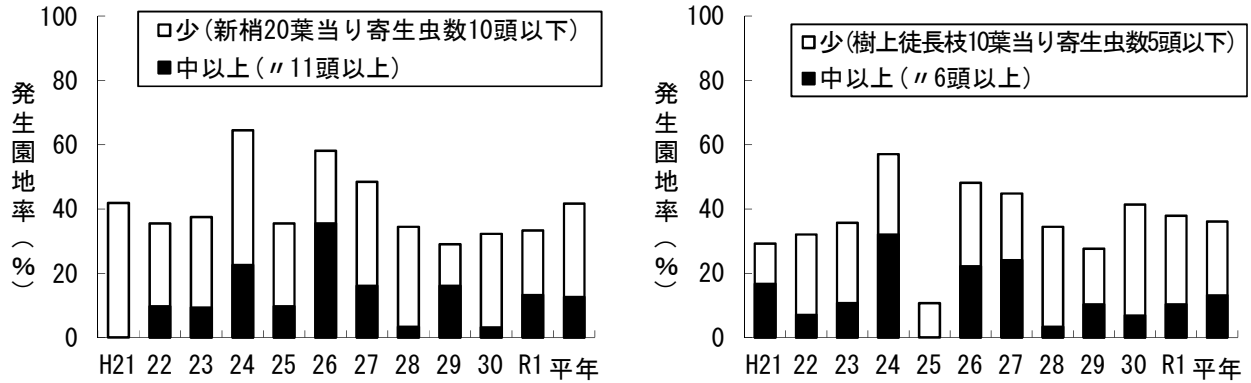


図15 ナミハダニの発生園地率の年次推移(7月後半、左:目通り、右:樹上部)

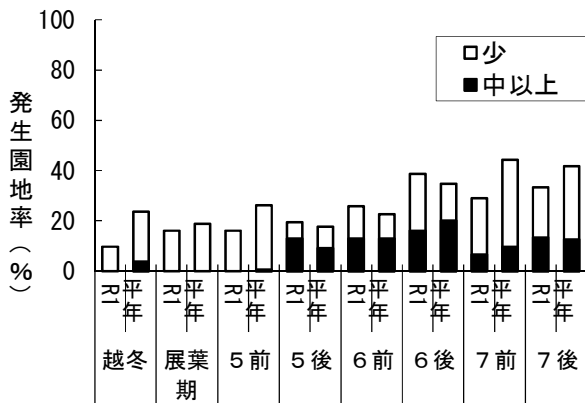


図16 ナミハダニの時期別発生園地率の推移(目通り)

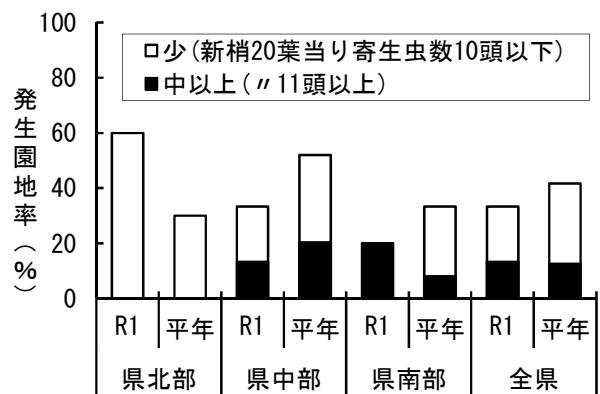


図17 ナミハダニの地域別発生園地率(7月後半、目通り)

8 シンクイムシ類

- (1) 7月後半の巡回調査では、被害果は確認されなかった(図18)。

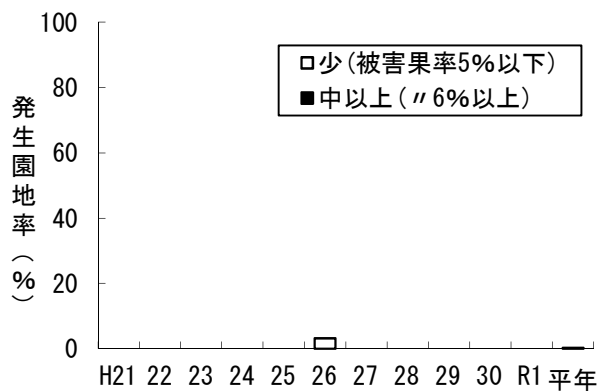


図18 シンクイムシ類の発生園地率の年次推移(7月後半)

9 果樹カメムシ類

- (1) 7月後半の巡回調査での被害果発生園地率は、平年より高かった(図19)。
- (2) 被害果の時期別発生園地率および発生度は、6月後半までは平年並であったものの、7月に入ると平年より高く推移した(図20、21)。
- (3) チャバネアオカメムシの基準圃場(北上市成田)および現地の集合フェロモントラップへの誘殺数は、平年並から平年より少なく推移したが(図22、23)、クサギカメムシの予察灯への誘殺数は盛岡市川目で7月中旬にやや増加した(図24)。

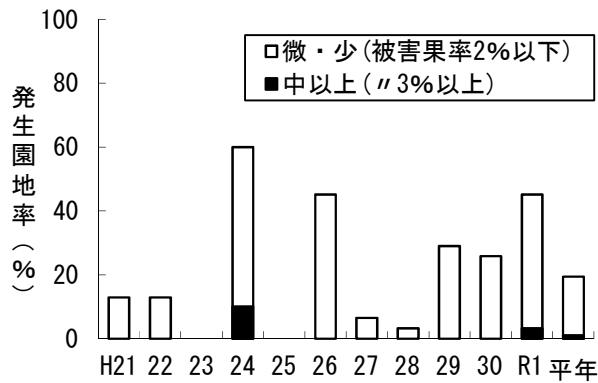


図19 果樹カメムシ類被害果の発生園地率の年次推移(7月後半、ふじ)

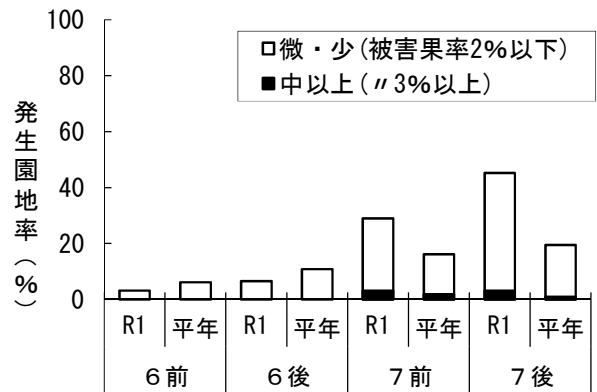


図20 果樹カメムシ類被害果の時期別発生園地率の推移(ふじ)

※7月前半の平年値はH24~H30の7か年平均

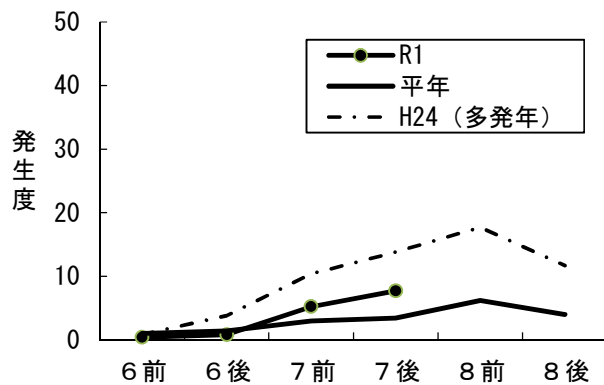


図21 果樹カメムシ類被害果の時期別発生度の推移

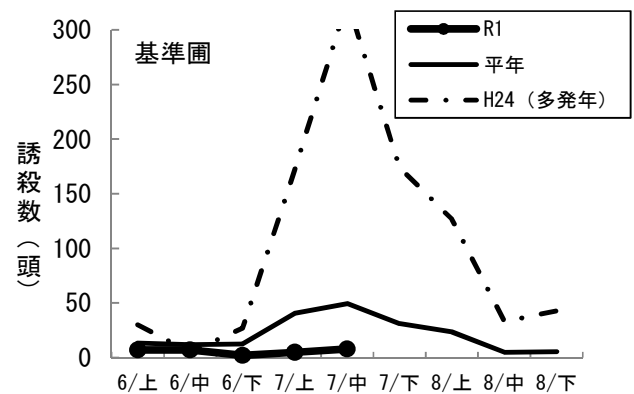


図22 基準圃場(北上市成田・無防除)におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況

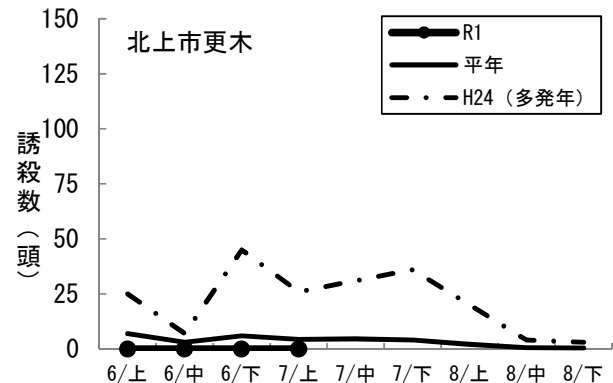
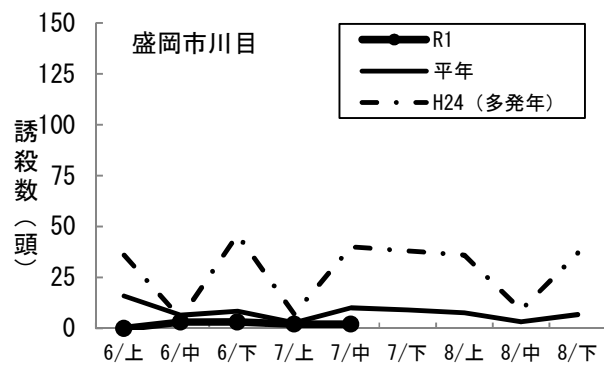


図23 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況(左:盛岡市川目、右:北上市更木)
※北上市更木の7月中旬は第3半旬のデータ

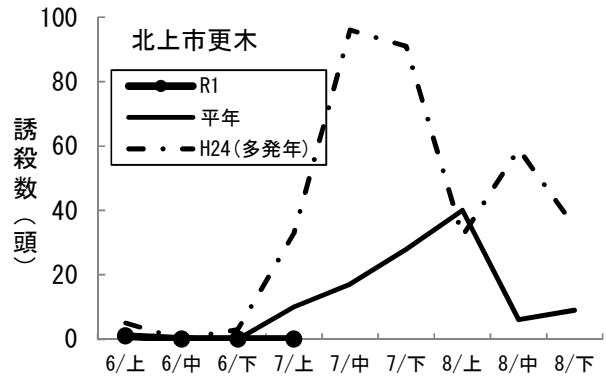
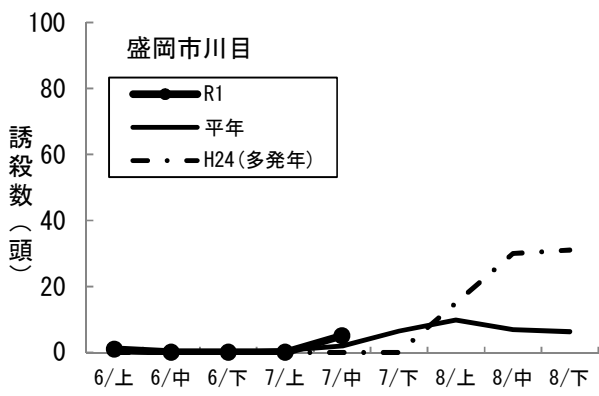


図 24 クサギカメムシの予察灯への誘殺状況 (左：盛岡市川目、右：北上市更木)

※北上市更木の7月中旬は第3半旬のデータ

農作物病害虫発生現況情報（7月）きゅうり編

1 ベと病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった（図1）。

2 うどんこ病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生は見られなかった（図2）。

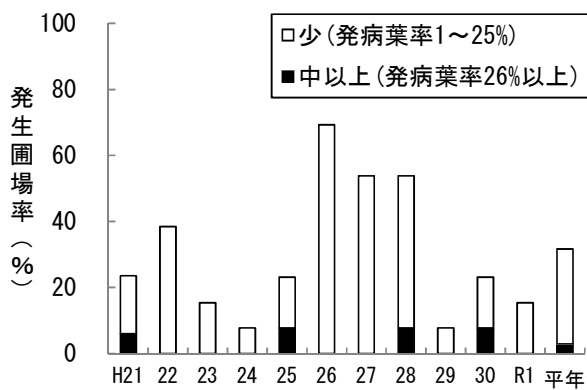


図1 ベと病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

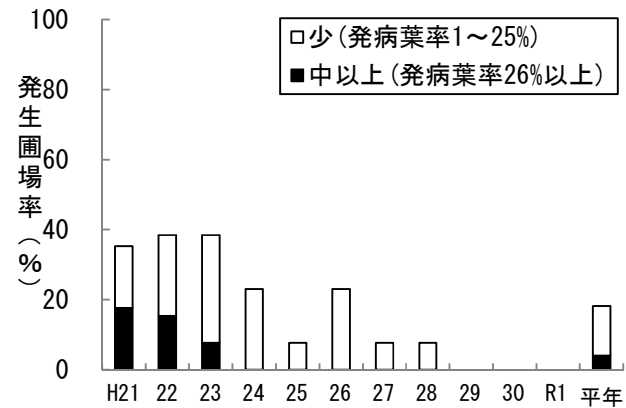


図2 うどんこ病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

3 斑点細菌病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かった（図3）。

4 黒星病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かった（図4）。

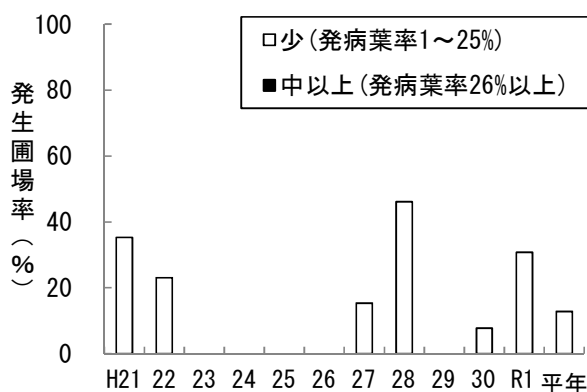


図3 斑点細菌病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

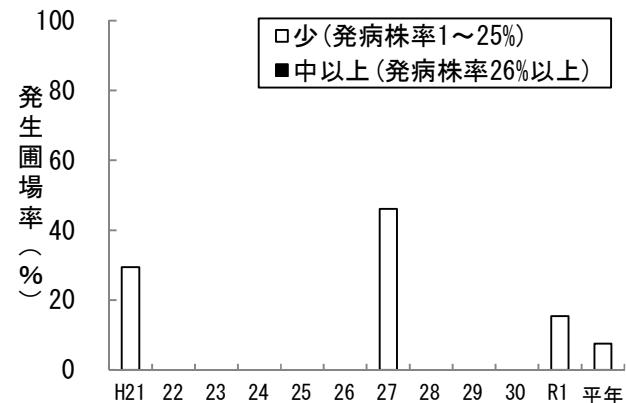


図4 黒星病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

5 褐斑病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率、程度とも平年より低かった(図5)。

6 炭疽病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年よりやや高かった(図6)。

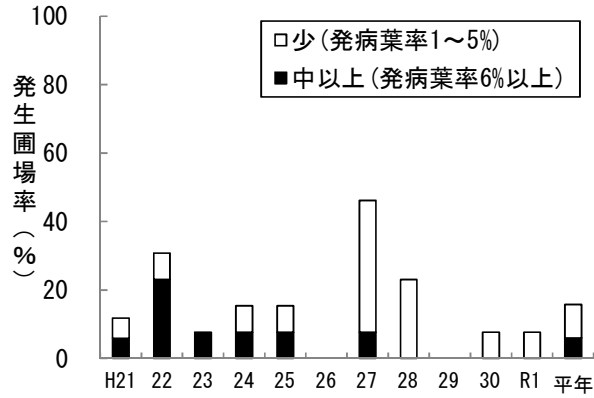


図5 褐斑病の発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

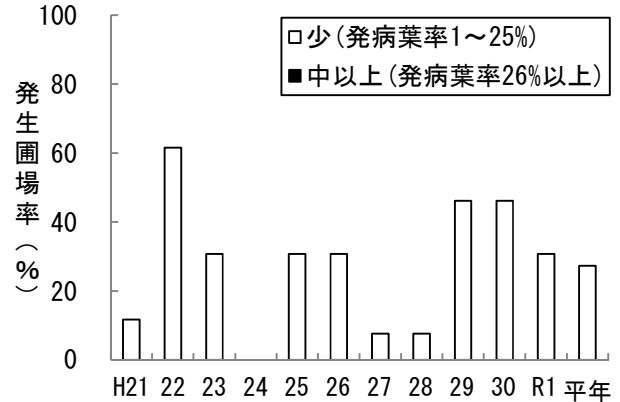


図6 炭疽病の発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

7 ワタアブラムシ

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年よりやや低かった(図7)。

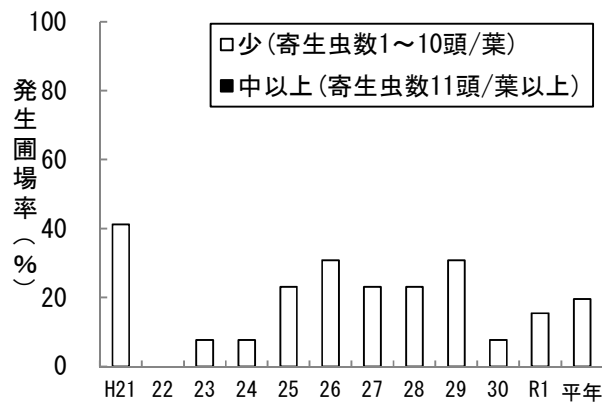


図7 ワタアブラムシの発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

農作物病害虫発生現況情報（7月）キャベツ編

1 コナガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少なかった（図1）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少なかった（図2）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、7月以降平年より少なかった（図3）。
- (4) 7月中旬の巡回調査では、産卵圃場率、幼虫発生圃場率ともに平年より低かった（図4、5）。

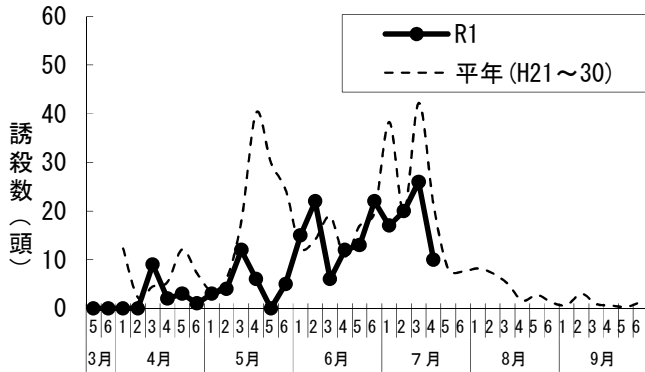


図1 基準圃場（北上市成田）におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

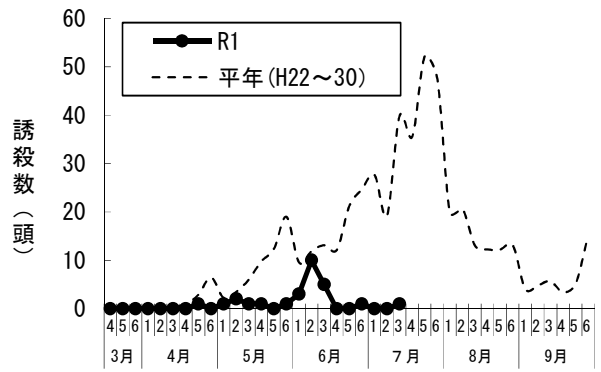


図2 軽米町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

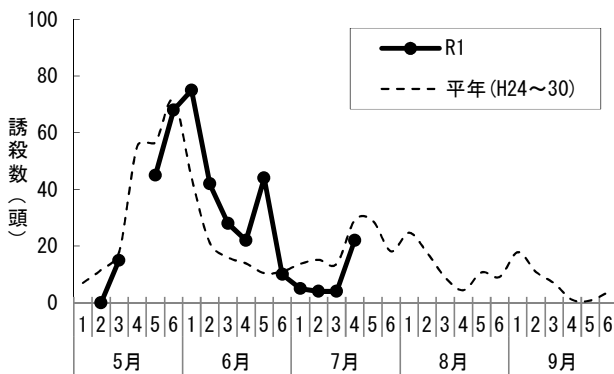


図3 岩手町におけるコナガの誘殺状況

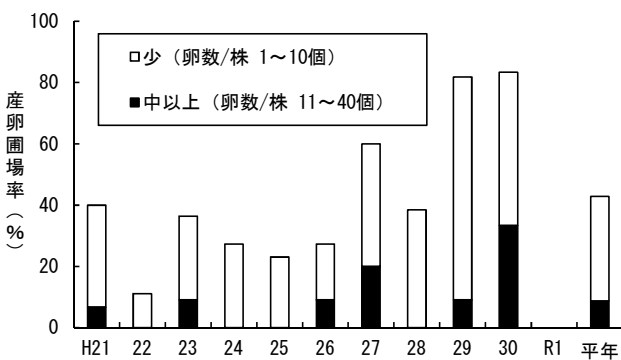


図4 コナガ産卵圃場率の年次推移（7月中旬）

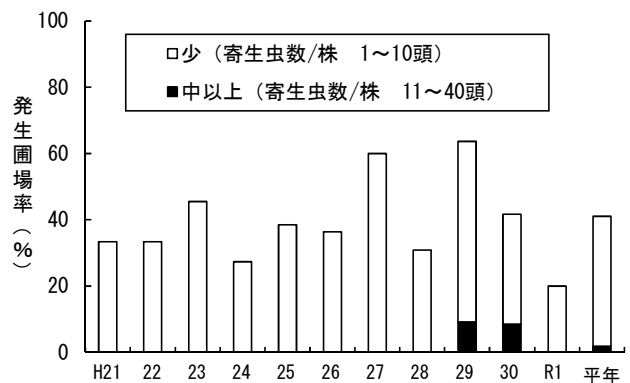


図5 コナガ幼虫発生圃場率の年次推移（7月中旬）

2 ヨトウガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺は7月第4半旬から認められ、ほぼ平年並であった（図6）。
- (2) 7月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は平年より少なかった（図7）。

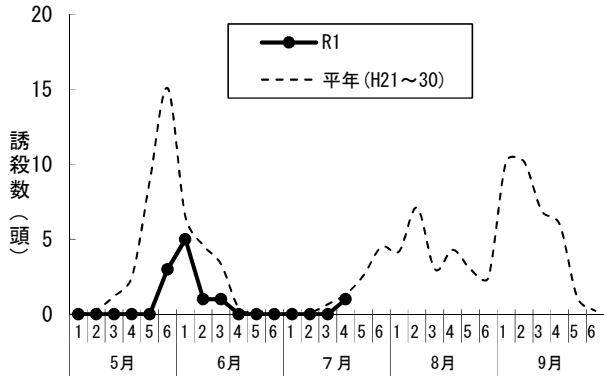


図6 基準圃場（北上市成田）におけるヨトウガの誘殺状況

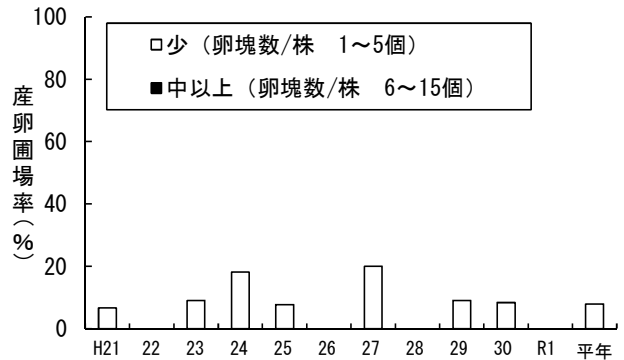


図7 ヨトウガ産卵圃場率の年次推移（7月中旬）

3 ウワバ類

- (1) 7月中旬の巡回調査では、幼虫の発生圃場率は平年より低かった（図8）。

4 モンシロチョウ

- (1) 7月中旬の巡回調査では、幼虫の発生圃場率は平年より高かった（図9）。

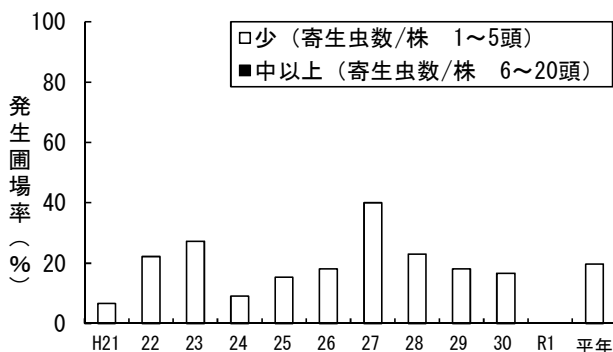


図8 ウワバ類幼虫発生圃場率の年次推移（7月中旬）

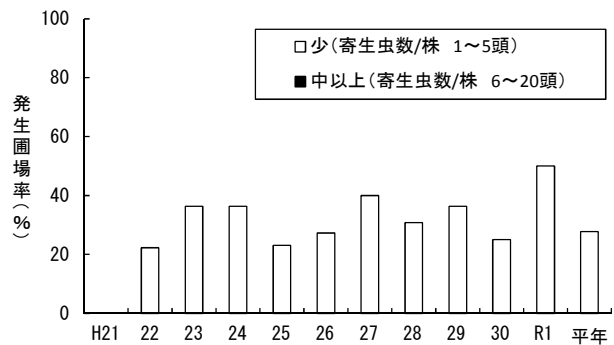


図9 モンシロチョウ幼虫発生圃場率の年次推移（7月中旬）

農作物病害虫発生現況情報（7月） ねぎ編

1 さび病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年並であった（図1）。

2 べと病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かった（図2）。

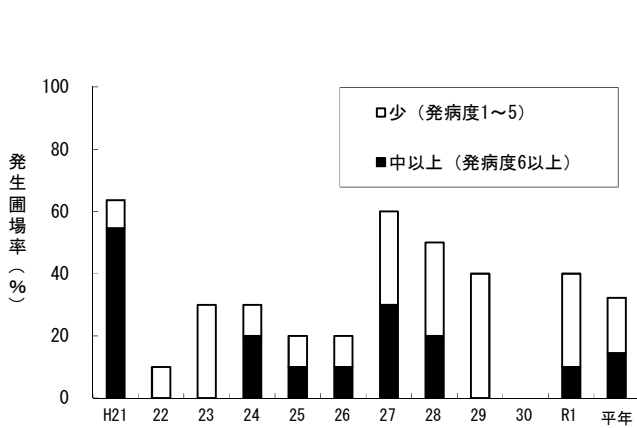


図1 さび病の発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

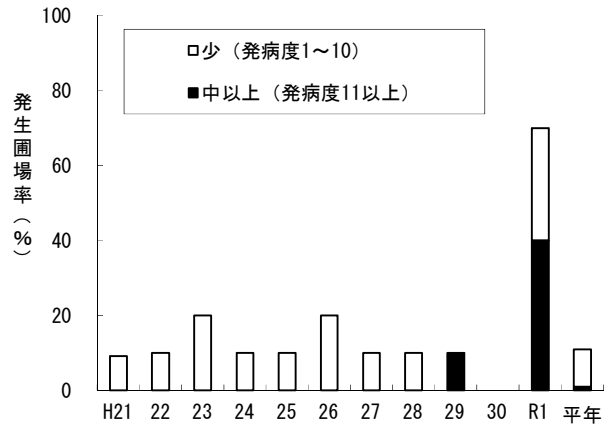


図2 べと病の発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

3 黒斑病・葉枯病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年並であった（図3）。

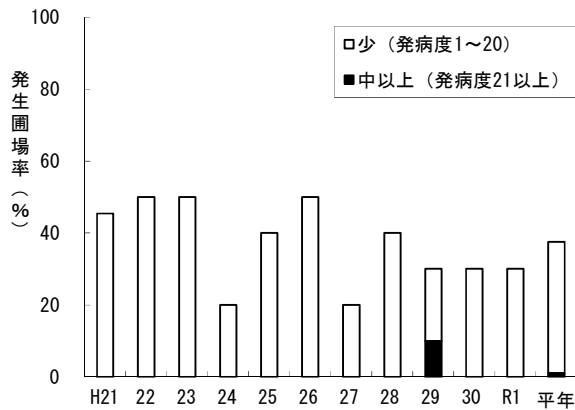


図3 黒斑病・葉枯病の発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

4 ネギコガ

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった(図4)。

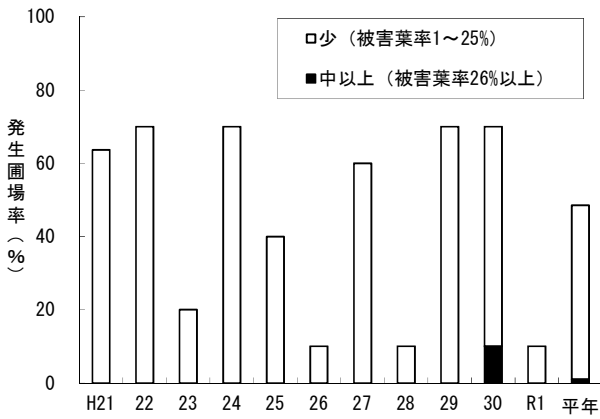


図4 ネギコガの発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

5 ネギハモグリバエ

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かった(図5)。

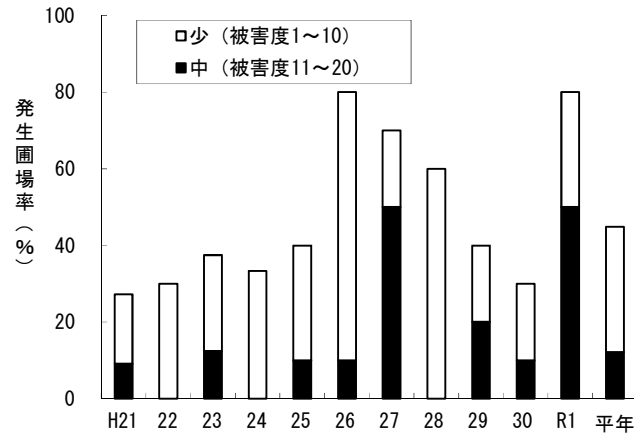


図5 ネギハモグリバエの発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

6 ネギアザミウマ

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かった(図6)が、寄生成虫数は6月下旬から7月下旬にかけて減少傾向であった(図7)。

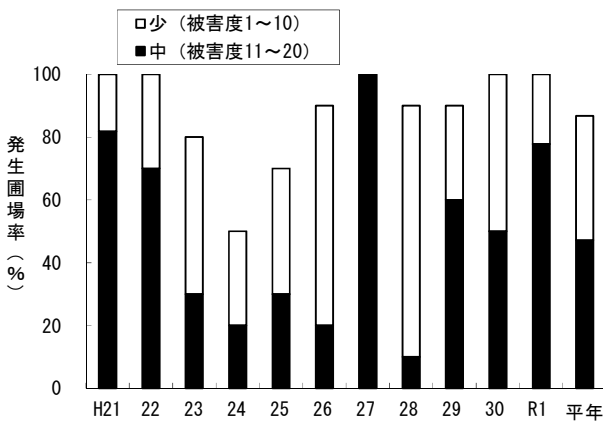


図6 ネギアザミウマの発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

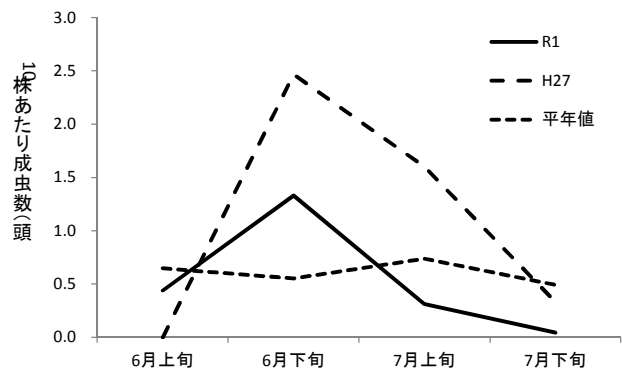


図7 ネギアザミウマ寄生成虫数の推移

農作物病害虫発生現況情報（7月）りんどう編

1 葉枯病

- (1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率、程度とも平年より低かった（図1）。
- (2) 採花部での発生は平年どおりみられなかった。

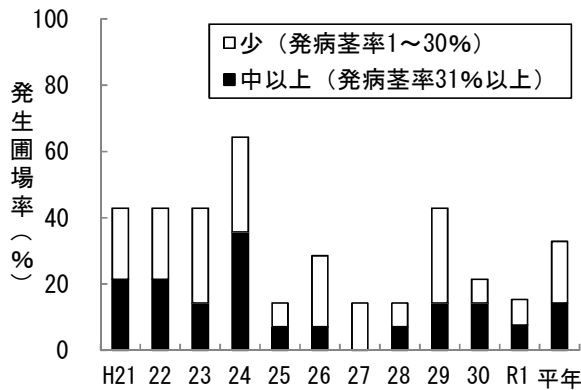


図1 葉枯病の発生圃場率の年次推移（7月下旬、株全体）

2 褐斑病

- (1) 7月下旬の巡回調査では、平年どおり発生は確認されなかった。

3 ハダニ類

- (1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率、程度とも平年より低かった（図2）。

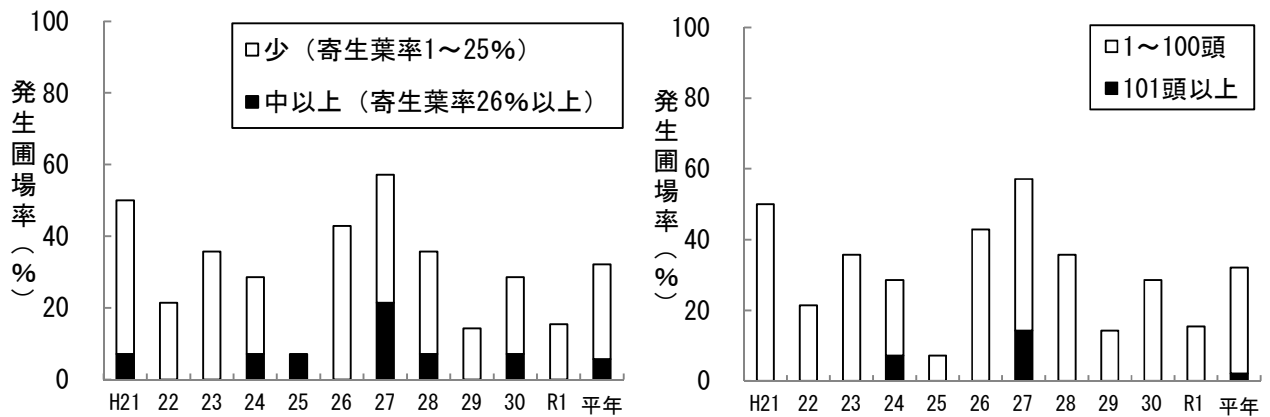


図2 ハダニ類の発生圃場率の年次推移（左：寄生葉率、右：寄生虫数/80葉中、7月下旬）

4 リンドウホソハマキ

(1) 7月下旬の巡回調査では、潜葉痕、生長部および茎部の被害発生圃場率、程度とも平年より低かった(図3)。

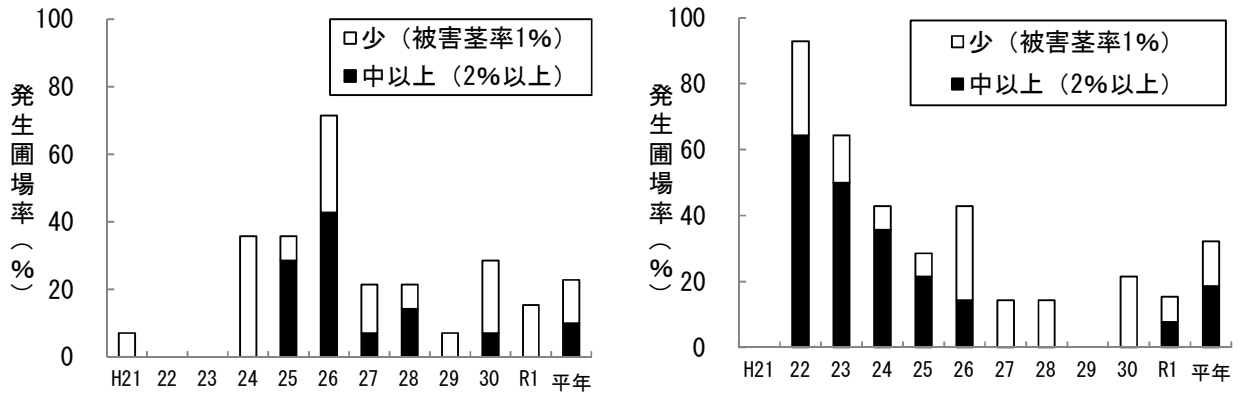


図3 リンドウホソハマキの発生圃場率の年次推移 (左：潜葉痕、右：生長部・茎部、7月下旬)

5 アザミウマ類

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率、程度とも平年より低かった(図4)。

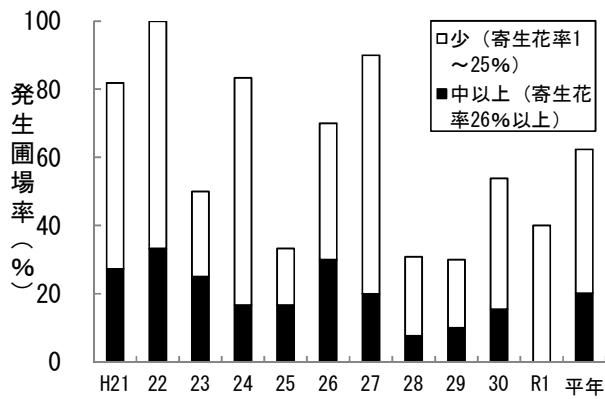


図4 アザミウマ類の発生圃場率の年次推移 (7月下旬)